

2022年3月15日

令和3年度 大学院連合農学研究科 修了式及び学位記授与式

学長告辞

本日、東京農工大学大学院連合農学研究科を修了され、博士学位を授与された皆様、誠におめでとうございます。とりわけ、この2年以上に及ぶコロナウイルス感染症の拡大により、様々な不自由を強いられる中、博士論文の作成にはこれまで以上に多くの困難を乗り越えなければならなかったはずです。それに屈することなく日々の研究活動に全力で取り組み、学術の新しい世界の一端を切り拓かれたことは本当に素晴らしいことだと思います。

皆様がこれからますます研鑽を重ね、新たな道を拓いて行く上で、この学位

の取得は大きな礎であることは間違いありません。それに加え、いま世の中が抱える様々な問題、あるいはまだ誰も気づいていない自然現象や社会を動かす本質について、自らの洞察力でそれらをしっかり見つめることも欠くことのできない大切な部分です。自分はこれから何をしたら良いのか、どのような人たちと力を合わせるべきか、大事な研究や事業を行うためには、何をどう準備しなければならないかといったことに対し、はっきりと答えを示せる構想力と実践力を持ち、それを実現していくことこそ博士に求められる高いレベルの仕事であると言えます。このような活動は、実際には決して簡単なことではなく、おそらく次々と予想もできないような困難にもぶつかるものだと思います。しかし皆様は学位取得の過程で、思い通りにならないこと、うまく行かないことについても数多くの経験をされてきたことと思います。それは、たとえ大きな壁でも必ず乗り越えられるという強い信念に支えられた、目標を実現する力となって自らを奮起させることができます。

そして、同時に忘れてはならないことは、皆様を常に支える身近な人たち、さらには広く社会に対する感謝の気持ちです。博士となるためには、指導教員を始めとする研究室や学会関係者、家族や友人の支えもかけがえのないも

のであったはずで、さらには研究活動に没頭できる貴重な機会を与えられたことは、目には見えない多くの人たちの支えがあってこそのことです。このことを忘れないことが、様々な困難に直面している人の気持ちを理解し、できる限り手を差し伸べようという行動にも繋がります。その結果、きっと皆様は人を惹きつけ、巻き込んで行くような強い推進力をもって、本当になすべき大切な事に、勇気をもって向かって行けるはずです。これこそ、本当に力のある博士の姿であり、皆様自身の今日からの姿であって欲しいと思います。博士とは、これまでの世界、これからの世界をしっかりと見極め、世の中が必要とする大事なことに対し、信念と責任を持ち、自分の役割をしっかりと果たすことができる人のことです。

いま目の前にある学位記を手になされ博士となられた皆様が、これからさらに、自分自身でもまだ気づかぬより大きな力を発揮し、未来に向けて無くてはならない人として活躍されることを心より願っております。

皆様への大いなる期待を込めて、心からのお祝いの言葉と致します。

本日は誠にありがとうございます。

令和4年3月15日

東京農工大学長 千葉一裕